

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	地域見守りハンド・イン・ハンド事業
対象地域	青森県五所川原市
活動概要	<p>ア テーマ かつての日本は、貧しい中にも「向こう三軒両隣」が力を合わせて地域コミュニティを守り、育むよき伝統があった。自分の子どもではなくても、あるときは叱り、あるときは救いの手を差し伸べ、お互いに助け合いながらコミュニティ全体が暖かく子どもを見守る風潮が溢れていた。日本は経済的に豊かになったが、それと引き替えにコミュニティの古き良き伝統が失われたと言われている。</p> <p>本事業は、「地域安全マップ」の作成を通じて、子ども自身が犯罪の危険を察知し、危険から回避する能力の向上を図るとともに、地域コミュニティの大人達が「地域の子どもを守る」という共通の認識の下連携し、子どもの安全に目を向け、自分たちの力で犯罪発生危険箇所の見通しを確保して犯罪の起こりにくい環境整備をするなど、地域コミュニティの地域見守り力のアップをテーマとして事業展開するものである。</p> <p>イ 地域の課題及び本事業で実現したいこと 青森県の人口動向は平成11年以降自然動態が、少子化傾向と高齢化の進行によりマイナスに転じ、年々そのマイナス幅が拡大している。このような極めて厳しい局面に歯止めをかけるためには、安心して子を育てられる生活環境の整備が必要であることから、治安上の観点から快適な生活環境を構築するべく、人口動向のマイナス幅が大きい五所川原市において、モデル事業として地域安全マップ作成指導者の育成を図るとともに、地域住民の子ども安全確保に関する関心を高め、地域安全マップの作成を通じて町内会、PTA、自主防犯ボランティアその他地域コミュニティの連帯感を醸成することにより、子どもが犯罪に巻き込まれることのない生活環境の整備を図るものである。</p> <p>また、このような取組が青森県全体に波及するべく広報活動をし、子どもに対する不審な声掛け事案、子どもに対する犯罪の抑止を図り、以て、青森県全体において治安上の観点から快適な生活環境の実現に寄与するものである。</p>
今年度の主な取組	<p>ア 「地域安全マップ」作成指導者育成事業 「地域安全マップ」の提唱者である、立正大学・小宮信夫教授及びスタッフを招請して、五所川原市内の小学生を対象に「地域安全マップ」作成研修会を実施する。当該研修会は、町内会、PTA及び自主防犯ボランティア関係者（以下「PTA等」という。）の参加を得て、子どもたちに「地域安全マップ」作成を指導する模様を見学させ、PTA等に実地に「地域安全マップ」作成を経験させるとともに、小宮教授による子ども安全確保に関する講習会を実施して、「地域安全マップ」作成の意義、留意点、実施方法その他ノウハウの伝承を行うものである。</p> <p>当該講習会修了者に対しては、「地域安全マップ作成指導者研修会」修了証を交付するとともに、「地域安全マップ指導者」名簿に登載して、各学校、子供会、町内会その他地域コミュニティの要請に応じて派遣できるようネットワーク化を図るものである。</p> <p>イ 地域安全マップ普及啓発事業 ○ 「地域安全マップ作成指導者研修会」の模様を中心にテレビ番組として制作し、当該番組を県下全域に放映するとともに、「地域安全マップ」の意義や作成のための「テレビ番組のビデオ」及び「地域安全マップマニュアル」を作成して五所川原市内の全小学校、全町内会に配布して、「地域安全マップ」の普及を図る。 ○ 五所川原市内における取組の普及度合いに応じて、五所川原市当局に働きかけて「地域安全マップの街」、「子どもが安全して暮らせる街」などのキャッチフレーズを掲げることにより、安心して子どもを育てられる生活環境をアピールし、他の行政施策との相乗効果により人口流出抑制の一助とするものである。</p> <p>ウ 地域コミュニティ子ども見守り力アップ事業 「地域安全マップ作成指導者」育成事業においてネットワーク化した「地域安全マップ指導者」を中心として町内会・子供会の行事として「地域安全マップ」作成を行い、町内の子どものみならず、その保護者の参加も得て、子ども安全確保という共通認識の下、お互いのコミュニケーションを深め、地域コミュニティの人々が自分の子どものみならず、地域全体の子どもを見守るという風潮を高めるものである。</p> <p>また、「自分の地域は自分で守る」という意識の下、地域住民が自分たちの力で草を刈って見通しを確保したり、ゴミ拾いをしてきれいになったり、照明を設置するなど犯罪の起こりにくい環境整備を自主的に推進することを期待するものである。</p>

活動結果	<p>・子ども安全確保というテーマで、大人と子ども、大人同士の交流が深まり、地域住民の連帯感強化のための共通認識が醸成された。</p> <p>・「地域安全マップ」作成を通じた地域住民の連帯感強化のためのリーダー候補に自主的な活動をするための自覚を促すとともに、実際に活動するための指南書を配布することにより、コミュニティー創生に向けた種が蒔かれた。</p> <p>・「地域安全マップ作成指導者研修会」の開催により、地元テレビ、新聞が取材に訪れ、翌日のテレビ、新聞で県下全域に報道された。また、同研修会を中心としたドラマ仕立ての広報番組が県下全域で放映され、県内全域に「子ども安全確保を通じたコミュニティーの創生」というテーマが情報発信され、県下全域にコミュニティー創生に向けた種が蒔かれた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>当初は、町内会を中心とした事業展開を想定していたが、五所川原南小学校PTAにおいて、これまで自主的なパトロール活動を積極的に行っていなかったところ「地域安全マップ作成指導者研修会」後、研修参加者を中心に小学校周辺の「犯罪の起こりやすい危険箇所」に対する定期的なパトロール活動を実施するなど、「子ども安全確保」を通じてPTA活動が活発化している。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真・左】小学生のフィールドワーク(地域安全マップ)実施状況 【写真・右】「地域安全マップ」の作成状況</p>
応募団体名	(社)青森県防犯協会連合会、五所川原地区防犯協会
リンク	-
部局／担当者名	(社)青森県防犯協会連合会事務局長 横嶋 春一、 青森県警察本部生活安全企画課街頭犯罪等抑止対策室長 鈴木 誠(主管官庁)
連絡先	TEL:017-723-4211 (内線: 県防連6823、生活安全企画課3041) Emailアドレス: E10100@plc.pref.aomori.jp
推薦市町村名	五所川原市